

「七夕の日に (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

1年生の作った七夕飾りは、短冊のほかに、子どもたちが折り紙で作った飾りで、なかなか美しくなった。竹の葉はすっかり萎えてしまったが、教室が明るくなったような気がする。



七夕飾りというのは、7月7日まで飾るのが良く、その後何日間も飾っておくものではない。1年生の各教室に飾られた竹と飾りも、七夕の日に片づけることにした。



短冊は捨てないで、子どもたちに返して、持ち帰らせることにした。短冊だけはずしても良いのだが、短冊がついた枝ごとにはさみで切り取ることにした。わずかな葉のついた、短い竹の枝だが、家庭で七夕飾りをしなくなった現在では、玄関にでも飾れば、ご家族も少しは七夕気分になれるかも知れない。



担任が一枝ずつ切り取ると、「それ私の一」「ぼくのあっち」「何もついてない枝もちょうだい」と大騒ぎだった。子どもたちには大切なものなのだろう。



その場で受け取れなかった子どものものも、カゴの中に大切に保管し、帰りの会に手渡せたようだ。



この日は給食も「七夕づくしメニュー」だった。まぜご飯にも、お吸い物にも「星」が入っている。七夕の日には「そうめん」を食する習慣もあるそうで、「サラダそうめん」もついてた。食育的にも、七夕と言う伝統行事を大切にされていて、嬉しく思った。